

灯火

(あかり)



熊谷市立大里中学校

○心豊かな生徒 (学校教育目標より)

命を大切に、他を思いやり、
夢に向かって努力する子どもたちに

第2号 平成24年7月18日

あなたなら どうします？



読売新聞社に市各クラスに、毎朝刊が配達されています。

その朝刊に、
「人生相談」のコーナーがあります。中学生には少々向かない相談内容もありますが、先日、

同じ「中学生の悩み相談」が掲載されていました。それを紹介します。

さて、それぞれの立場で(保護者として、同じ中学生として、教員として、その他いろいろな立場で・・・)このAさんに対して、どのような対応・アドバイスをされますか？もし、このA子さんに手紙を出すとしたら、あなたはどんな手紙が書けますか？(今の時代は手紙よりメールなのかも知れませんが・・・)

まずは何とも思わない。手紙も書きたくない・係わりを持ちたくないと思う人も多いかと思いますが、もしこの悩みがあなたの一番身近な、一番大切な人の悩みだとしたら、どんなアドバイスができますか、どんな手紙が書けそうですか？

今、幸運にも回答を用意しているあなた、そのアドバイスによって、さらにA子さんの悩みが深まることはありませんか？また、さらにA子さんと「A子さんの彼女」が傷つくことはありませんか？

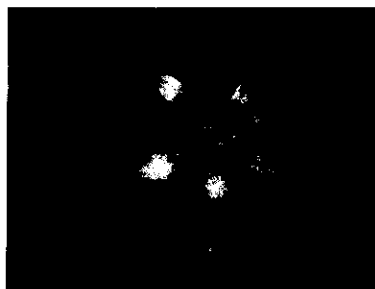
今回のこの相談内容で、ぜひ自分自身の価値を問い質してみようでしょうか？

今回のような悩みへの返答に正解はありません。どれがベターでどれが質問者のためなのか。他者の気持ちに添うことの重要性もふくめ、ぜひお考え下さい。(尚、このときの新聞には担当回答者の回答も紹介されています。今回は皆さんにお考え頂くために掲載してありませんが、もし、回答もぜひ見たいという希望が多くあるようでしたら、次号の裏面に掲載したいと思います。)

私立中学3年の女子。同級生の女子のことで相談します。
彼女とは、中一の初めの頃は特別に仲が良かったのですが、ある時、彼女が私の悪口を言っているのを聞きました。彼女とは仲直りしたかったのに、「まあいいか」と済ませることができなくて、翌日から彼女を無視しました。彼女は「どうして無視するの」と聞いてきました。私は取り合わず、以後2年間、彼女ともともに会話をしていません。
ところが昨年末、彼女の友達と話したら、彼女が私の悪口を言

無視した友達 仲直りしたい

私は、今通っている中学の系列の高校ではなく、他の高校に進学するつもりです。彼女とは自宅も遠いので、このまま卒業すれば、もう一生、彼女と会わないと思います。卒業までに何とか仲直りしたいです。自分から縁を切ったのに都合のいいことを言っていると思います。悔いを残したくありません。どうすればいいですか。
(大阪・A子)



シリーズ『授業探検』



シリーズ「授業探検第2段」2年B組の道德授業の様子です。授業者はもちろん担任の藤原先生・・・ではなく、教育実習生の木暮先生です。木暮先生は藤原先生の指導のもと、3週間2Bを中心として実習を行ってきた先生です。今回の授業テーマは「より良い社会の実現」です。

話の内容は

小さなゴミならたまに路上に捨てた経験のある主人公の「ぼく」が、学校の奉仕活動で地域の人たちと一緒に通学路のゴミ拾いに そのとき



道の端に風で吹き寄せられたゴミの中に見覚えのあるゴミが（自分が捨てたゴミが） そして



一緒にゴミ拾いをしていたおばさんが話しかけてきた。「お菓子の袋とかあめの包み紙とか、平気で捨てる子がけっこういるのよね。自分の家の中でもこんなことをするのかしら。町も家も同じ。自分の使う場所はきれいなほうが気持ちいいと思うけど。」と。



ぼくは、何も言えず、うつむいた。心にずしんと響いた。そう言われてみると、いつも父親に「うちはゴミ箱じゃない」と日々怒られている。



ぼくは、ゴミを拾うペースが急に速くなり、今までの自分を洗い流すかのように、汗をかいてゴミを拾い続けた。奉仕活動の終わる頃には、すがすがしい気分のぼくがいた。



一週間後、近所を歩いていると、奉仕活動で一緒だったおばさんに「こんにちは」と声をかけられた。ぼくは、ズボンのポケットに入っていたあめの包み紙をぎゅっと握りしめた。

*今回の授業での重要なところは、おばさんの言葉で、奉仕活動に意義を見いだすことができ、一生懸命やっていくうちに気持ちよい自分が発見できたことではないでしょうか。おばさんの言葉だけ、さらには父親の言葉が加わっただけでは、心底からの、体で感じ取る納得（価値観の変化）はなかったかも知れません。「ゴミを拾うことで自分の罪悪感を消してしまいたかった」等の発言を生徒から引き出すなど、今回の授業では実習生の授業とは思えない、深まりのある道德授業になりました。できればいつか、同じ副読本にある「捨てる、捨てない、そして拾う」の資料も扱って頂ければと思います。「公共の福祉」の価値も広がることと思います。

どんな気持ちで



ひと月ほど前の朝の話です。登校する本校の生徒が、女性の方に声をかけられ「花を学校へ持って行って下さい。」と、「きれいな百合の花」をたくさん頂いたそうです。それも、理由も名前も告げずに・・・おそらく、その方が丹精を込めて育て上げたのでしょう。その花は大輪の花を咲かせて、何日もの間廊下を明るくさせてくれました。

「学校のお役に立てば・・・。」というお気持ちだったのか？いずれにせよ、大事な大切なプレゼントを頂きました。学校では、ただ、花瓶にさして飾るだけのことしか出来ませんでした。その方の願い・思いに応えることが出来たのでしょうか？自分の手塩にかけた大切なものを、名前も告げずに、他の人に手渡すことができるその方の行為に思わず恐縮してしまうのは私だけでしょ。人間の気高さを自然に感じ取ることができる出来事であり、また、改めて学校は、地域の人々によって支えられていることを感じさせられる出来事でもありました。